

Newsletter No. 7

Maxillofacial Prosthetics

発行人 後藤昌昭

編集 広報委員会

事務局 〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷(株) 学会事務センター内

Tel : 03-5620-1953 Fax : 03-5620-1960

E-mail : max-service@onebridge.co.jp

理事長所感 — 先進医療としての顎顔面補綴 —



日本顎顔面補綴学会

理事長 後藤 昌昭

昨年秋に先進医療専門家会議による今後の先進医療に関する見解が答申されました。顎顔面補綴に関しましては施設基準を見直し2年後までに症例が増えなければ廃止、インプラント義歯に関しては関連学会において2年以内に指針策定ができなければ廃止し、策定できれば保健導入を検討するとなっております。

顎顔面補綴に関する施設基準で、医師または歯科医師の基準は下記の通りです。

- (1) 専ら形成外科、歯科又は歯科口腔外科に従事し、当該診療科について五年以上の経験を有していること。
- (2) 日本口腔外科学会の認定する口腔外科専門医又は日本補綴歯科学会の認定する補綴歯科専門医であること。
- (3) 当該療養について五年以上の経験を有し

ていること。

- (4) 当該療養について五例以上の症例を実施していること。

また施設基準は下記の通りです。

- (1) 形成外科、歯科又は歯科口腔外科を標榜していること。
- (2) 当該療養を実施する診療科において、当該診療科及び当該療養の経験を五年以上有し、日本口腔外科学会の認定する口腔外科専門医又は日本補綴歯科学会の認定する補綴歯科専門医である歯科医師が三名以上配置されていること。
- (3) 病床を有していること。
- (4) 当該療養を実施する病棟において、看護職員の数が、入院患者の数が三又はその端数を増すごとに一以上であること。
- (5) 医療機器の保守管理を行う体制が整備されていること。
- (6) 医療安全管理委員会が設置されていること。
- (7) 当該療養について十例以上の症例を実施していること。
- (8) 届出月から起算して六月が経過するまで

の間又は届出後当該療養を十例実施するまでの間は、一月に一回、地方社会保険事務局長に対し当該療養の実施状況について報告すること。

顎顔面補綴に関する基礎的、臨床的研究、発表を行ってきた本学会の名称がどこにもないのは、やはり日本歯科医学会に所属していないためでありましょう。

顎顔面補綴に関しましては、顎補綴と顔面補綴を分けて考える必要があります。顎補綴に関しましては栓塞子のある顎義歯や、下顎欠損後の従来法による顎補綴はすでに保険に導入されており、現状で先進医療といえるのはインプラントを併用した顎義歯です。顔面補綴に関しましては従来の接着剤による顔面補綴とインプラントを維持源とする顔面補綴の2種類がありますが、いずれも先進医療に含まれるものと考えます。他方、先進医療のインプラント義歯とは、通常の歯牙欠損症例に対するインプラント義歯は先進医療とは言えず、やはり顎骨切除後の症例や顎骨再建症例に応用したインプラント顎義歯が先進医療に相当するものと考えます。

顎顔面補綴が先進医療として認められず、保健へも導入されないとなると、エックス線検査、投薬など顎顔面補綴に伴うすべての医療行為が自費負担となり、患者の経済的負担は極めて大きくなります。保健への導入が最も望ましいのですが、せめて先進医療として承認されていれば、保健診療との併用が可能です。顎顔面補綴の症例数を飛躍的に増加させることは不可能ですが、2年後に顎顔面補綴が先進医療として廃止されないように学会としてあらゆる方面へ働きかけていく必要があります。

関連学会案内①

第56回 American Academy of Maxillofacial Prosthetics 学会が、2008年10月25日～28日にアメリカネネシー州ナッシュビルにて開催されます。抄録締め切りが2008年9月1日となっておりますので、オンラインでの数多くの演題登録を御願ひ申し上げます。一般演題はすべてポスター発表となっております。
<https://www.maxillofacialprosth.org/home.htm>

認定医制度の現状

認定医制度検討委員会

委員長 石上 友彦

社会に顎顔面補綴の専門性を周知していただくための認定医制度の施行が、第24回総会（平成19年7月20日）において決定し、10か月近くなります。本学会は多岐にわたる専門性を基盤とする学際的分野であり、会員は、歯科医師をはじめ医師、歯科技工士、歯科衛生士など多くの専門職種から構成されており、全ての職種を同一の認定条件のもとで設立することは難しく、その最初の活動として歯科医師、医師を対象とした認定制度としてスタートしました。今、各専門分野における認定医、専門医の提示は社会貢献の一端として必要であるばかりでなく、高い社会的評価を受けております。

現在は認定医制度施行に伴う暫定処置として、医師あるいは歯科医師免許を有し、本学会の会員歴が通算8年以上であるとともに、本学会の学術大会または機関誌に顎顔面補綴学に関する発表を行った方の申請により認定証を交付しております。暫定期間は平成22年7月19日までの3年間であり、暫定期間終了の後についての認定医規則や申請方法はホームページに詳しく記載されております。

平成20年2月末現在で、62名の認定医が誕生しております。今後も多くの会員が認定医を取得し、ホームページに認定医名簿を掲示し、顎顔面補綴治療を必要としている患者さんにとって吉報となる情報を提供していきたいと思っております。また、学会がさらに活性化し、社会に周知させていくためにも、学会誌およびホームページなどを通じて広く会員に認定医制度を理解して頂き、有資格者は是非とも申請して頂けることを希望いたします。

関連学会案内②

第53回日本音声言語医学会総会

日時：2008年10月23日（木）～24日（金）
場所：三原市芸術文化センター ポポロ
主管：県立広島大学保健福祉学部コミュニケーション障害学科（今泉 敏教授）

次期総会長挨拶



第 26 回日本顎顔面補綴
学会総会
総会長 下郷 和雄
愛知学院大学
顎顔面外科学講座
主任教授

顎顔面欠損の再建・補綴を研究研鑽の対象とする日本顎顔面補綴学会の第 26 回総会を開催させていただくことになり、大変光栄なものと存じております。会期は平成 21 年 6 月 26 日（金）・27 日（土）で、会場は、現在の主務地の名古屋からは少しだけ離れているのですが、三重県四日市市の、三重北勢地域地場産業振興センター“じばさん三重”にて開催することとしております。この会場は近鉄四日市駅に隣接し徒歩 3 分ほどのところにあります。ホテル群も極めて近く、地方都市ならではの便利さもあるかと思っています。

特別講演は元三重大学耳鼻咽喉科学教授で三重大学医学部名誉教授の坂倉康夫先生にお願いしています。教授は長年にわたり頭頸部癌治療に関わり顎欠損の対応にも造詣が深く、本学会員に対しても示唆に富むご講演をいただけるものと期待しております。また、一般口演は例年通りであります。特に質疑応答時間は十分に設け、これまで以上に活発な討論をしていただきたいと思います。ぜひ各施設の経験と情報をご発表ご討論戴いて、参加者間でそれを共有して今後の顎顔面補綴医療・癌医療ひいては歯科医療にとって一層の貢献への道すじにつないでいけたら幸いです。

会員懇親会も例年通り開催いたす予定です。三重県には松坂牛をはじめ沢山の美味しいものや名産品がありますし、少し足を伸ばしていただければ伊勢神宮までも 1 時間半ほどですので、ぜひご参加いただきましてこの機会に初夏の三重をお訪ね戴くのも一興かと存じます。どうぞ皆様のごぞってのご参加をお待ちいたしております。

優秀論文賞受賞の言葉



天野優一郎
愛知学院大学歯学部
有床義歯学講座

「光重合型床用レジンと粘膜調整材および床裏装材との接着力についての実験的検討」

（顎顔面補綴 30 巻 2 号）

この度は、日本顎顔面補綴学会平成 19 年度優秀論文賞という光栄な賞をいただき、ありがとうございます。この論文は、愛知学院大学歯学部顎顔面補綴科診療部にて、上顎欠損の術後閉鎖床をチェアサイドにて栓塞部を作り暫間顎義歯に改造する際に使用している光重合型レジン材料と粘膜調整材や床裏装材の接着力に関するものです。この材料を使用することにより、初心者でも栓塞部の作製、修理が簡便に出来、従来法と比べ発熱、刺激など患者の不快感も少なくなると確信しています。優秀論文賞に選ばれたことで、この材料について興味を持つ方が増え、全国の顎顔面補綴施設で使用して頂けたらと思っています。

受賞にあたり、選考委員、編集委員の先生方、また田中教授はじめとする同門の先生方のご助言、ご指導に深く感謝申し上げます。ちなみに田中教授からは「顎顔面は論文数が少ないからな～」というお褒めの言葉をもらっています。今後も、受賞したことを励みに臨床、研究に励んでいきたいと思っています。

関連学会案内③

第 14 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会

日時：2008 年 9 月 13 日（土）～ 14 日（日）

場所：幕張メッセ（千葉市）

主管：慶応義塾大学医学部リハビリテーション医学教室（里宇明元教授）

<http://www.congre.co.jp/jsdr2008/index.html>

関連学会報告

第9回日本口腔顎顔面技工研究会

第9回日本口腔顎顔面技工研究会が、平成19年11月24日（土）に長崎市の県立総合体育館にて、長崎大学医学部・歯学部附属病院中央技工室永野清司先生を大会長として開催された。この会はもともと、口腔外科で働く技工士たちが、お互いの情報交換の場として、1999年に第1回口腔顎顔面技工懇話会として始まり、8年後、名称を日本口腔顎顔面技工研究会と改称した。現在は、大分大学・関 三千男先生が会長を務められている。

この会の特徴は、歯科以外の分野で技工士が携わった仕事の発表も多いことにある。今回の研究会は、「匠の技と最新テクノロジーに学ぶものづくり」という大会テーマで、一般口演12題、宿題講演1題、特別講演1題、シンポジウム4題、計18題で、参加者は132名で非常に盛会であった。歯科医師の参加者は13名であった。

一般口演は、口腔外科技工の分野、一般技工の分野、3次元造形模型の分野と多岐に亘っていた。宿題講演は、「歯科技工士による工学博士取得について」のテーマで、技工士の向学心を刺激するものであった。特別講演は、アートジュエリー作家による技術と感性に関する講演で、ジュエリーの細工に用いる工具の使い方や完成品の説明が行われた。アートジュエリーも一つ一つ手作りで行うため、歯科技工と共通点が多いものであった。

シンポジウムは、「検証・ラピッドプロトタイピングの歯科医療への展開」というテーマで、ラピッドプロトタイピングについての、総論、応用、活用や新材料によるアレルギー体験の講演であった。また業者展示でもプレゼンテーションが行われた。

今回の研究会は18演題中7演題をラピッドプロトタイピングに関する演題が占め、3次元造形模型の最先端情報の提供の場となり、最新のテクノロジーを歯科技工に応用して臨床に活用することで、歯科医療の発展につながると感じた。



今回は、平成20年9月27日土曜日に兵庫県伊丹市で吉川昇平大会長（市立伊丹病院歯科口腔外科）のもとで開催される予定である。詳細はHPを参照ください。

<http://www.hosp.itami.hyogo.jp/10thsika-taikai/ltomr10/convention.html>

（山口能正・佐賀大学）

関連学会案内④

第8回 International Society for Maxillofacial Rehabilitation 学会が、2008年9月25日～28日にタイ、バンコクにて開催されます。今回より、日本顎顔面補綴学会はOrganizational Memberとして参加しますので、学会員の皆様には参加費が特別に設定され、一般参加の先生方に較べまして約150ドルのディスカウントが適用となります。学会発表には口頭発表、ポスター発表の2種があります。多くの学会員の皆様の積極的なご参加を心よりお待ちしております。

<http://www.ismr-org.com/2008Thailand/2008-register.html>

・皆様のご意見をお寄せください。

日本顎顔面補綴学会広報委員会

委員長 小野高裕

委員 大慈弥裕之、冲本公繪、熊倉勇美、
隅田由香、又賀 泉、山口能正

幹事 堀 一浩

TEL:06-6879-2954, FAX:06-6879-2957

E-mail:ono@dent.osaka-u.ac.jp

〒565-0871 吹田市山田丘1-8

大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔機能再建学講座